

# 2023 年度事業計画書

自 2023 年 4 月 1 日

至 2024 年 3 月 31 日

社会福祉法人 こぼと会

## 社会福祉法人こぼと会 あおぞら保育園 2022 年度事業計画

今年度の保育テーマ

### ～理念の追求（成長する力）～

昨年度は“ウェルビーイング”を足掛かりに、まずは心理的安全性高い職場を目指し、試行錯誤しながら保育の充実を目指し活動を行った。年度後半からは、改めて理念の徹底をしていこうと各園で今一度研修を行い、理念に基づいた行動の振り返りをしていくと、当初のモック表であった、心理的案税制がとても高まることが職員の気づきとなっていった。

今年度も昨年度の勢いを引き続き求め、理念の追求に焦点を置いて取り組んでいきたい。理念の行動指針はいわゆるPDCAサイクルをもとに形成されている。実践を通してスモールステップを踏みながら、職員自身の成長を後押ししていくことが目標である。

特に、大切にしたいことは“働きやすい、働き甲斐のある職場”は職員自身が作っていく点である。私たちの法人はこのことを達成するためにマネジメントを丁寧に行っていくきたい。

そして、この達成度により安定した保育の運営はもとより、生きがいや、喜びについて各職員の信念が深まり、地域に向けたは支援が高まっていくものと想定している。

そのためにも、一つ一つの事柄にテーマを持ち、子どもとともに自分たちが育てられる環境の創設に尽力していきたい。

## 1 施設運営

### (1) 児童の処遇

#### ア クラス編成

#### ①【こぼと第一保育園】

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
ポピー組	0歳	3名	9名	
つくし・れんげ組	1歳	4名	20名	
チューリップ マーガレット組	2歳	4名	24名	
ゆり組	3.4歳	2名	21名	
ばら組	3.4歳	2名	27名	
もも組	3.4歳	2名	27名	
カンナ・コスモス組	5歳	2名	36名	

#### ②【あおぞら保育園】

#### ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
ひよこ組	0歳	3名	10名	
りす組	1歳	3名	16名	
うさぎ組	2歳	3名	20名	
ぞう組	3歳	2名	21名	
きりん組	4歳	2名	27名	
らいおん組	5歳	2名	27名	
ぱんだ組	一時 定期	2名	10名定員 10名定員	

#### ③【あおおらぱれっと保育園】

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
組	0歳	3名	10名	
あんず組	1歳	3名	16名	
たんぽぽ組	2歳	3名	20名	
もり組	3歳	2名	21名	
うみ組	4歳	2名	27名	
にじ組	5歳	2名	27名	

#### ④【あおぞらルーム】

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
組	1歳	4名	6名	
いるか組	2歳		6名	

#### イ 健康管理

##### 健康診断

0歳児 毎月

1歳児～ 年2回（4月、10月）

歯科検診 年1回（6月）

#### ウ 保 育

下記の内容を参考とし各クラスの保育のねらいが連動し、0～6歳までの子どもの脳や身体の発達に即した援助技術が、子どもの「イキイキ、わくわく」につながる実践を今年度の目標とする。

## 保育の基本方針

法人理念に基づいた行動がすなわち保育の基本姿勢である。「子どものために」をスローガンに謙虚に自分自身を洞察し、「知る」喜びを通して成長し合える職員関係を築くことが重要となる。

そのためにも、主観ではなく客観性を下にした根拠ある考えを中心に据え、例えば若い職員であれば、わからないことを具体的に質問したり、リーダー層であれば、相手のわかる喜びを引き出すためのヒントを出したりと、お互いが切磋琢磨できるための環境作りに努力し、それが子どもの最善の利益へ結びつくようにしていく。これが基本方針である。

### ◎ 0歳～2歳半までの保育

- ・ 担当制をとることにより人間形成にとって一番大切な愛着関係を深め健康で安定した生活を確立していく。
- ・ 子どもの脳や身体の成長変化の一番大きい時期である。それぞれの成長の特徴を理解したうえで、個別の配慮を第一にしなが、将来を見通した援助を心掛ける。
- ・ 子どもの内発的な動機を刺激するよう絶えず環境を見直し、安全性に配慮しながらもチャレンジできる遊具、用具を多く取り入れる。

- ・ 家庭との連携を密にし、24時間の生活リズムを考慮した対応を心掛ける。

### ◎ 2歳半～5歳までの保育

- ・ 言語の発達とともに多様な人間関係を通してコミュニケーションの土台を作る大切な時期である。特に、知的好奇心が多いに発露する時期であることから、室内、戸外での心を躍らせるような体験が子どもの成長を大きく進展させる。子どもの自己実現を後押しできるよう工夫を重ね、小集団での仲間づくりの達成感を味わえるよう配慮する。
- ・ 3歳ごろから記憶を司る海馬の発達がとても活性化する時期と言われている。お話やメモリーゲームなど覚えて楽しめる遊びを多く用意し記憶を刺激するとともにゲーム性を生かしたルールの標準化を図っていく。
- ・ 再現遊びをするときに脳内の活動は盛んになり、いろいろな脳内のつながりができるといわれている。「ごっこ遊び」を通して、役割を交代することで友達との関係性を学んだり、役になりきることで、達成感や創造性を高めていく。

### ◎ 5歳児以降の保育

- ・ 5歳児を過ぎた子どもたちは、自然と学びの態勢が出来上がってくる。また、過去から未来への時間的概念が育つことにより、子ども同士の共有性が一気に花開くようになる。集団もだんだんと大きくなり行事などの目標を持ちながら所属感を強くし、育ち合いの気持ちが整ってくる。こういったことを念頭に子ども同士で話しあう経験を多く持ち、協調と共同の姿勢を作るような保育を心掛ける。
- ・ 就学に向けて子どもの期待を膨らませながら、個々の課題を確認し競い合う楽しみや周りの友達をいたわる経験を多く積むようにする。

### ◎ 個別的配慮を必要とする子どものために・・・

- ・ 個人差を受け入れるために、その原因を追究するとともに、個人ベースでの配慮点を職員間で共有できるベースを作り上げることに専心する。
- ・ 感覚統合的視点や行動科学的な視点を取り入れ、子どもの立場に立った援助を職員で共有化し、仮説、実践、評価を繰り返しながら少しでも効果的な保育を追究していく。
- ・ 子ども自身が達成感を得られるような配慮を一番大切なポイントとし保育に当たる。

## ☆各園のねらい

### こばと第一保育園

- ・子どもたちが自己肯定感をもち、主体的に活動できることを目標に全職員が意識して保育をしていく。
- ・理念をもとに職員、補助職員が相互理解を深め、一つのチームとなってクラス運営をしていけるように連携していく。
- ・環境評価スケールを定期的に取り入れ、保育内容や環境についての目線合わせや職員間で共有できる機会を増やしていく。
- ・人事考課を導入するなかで、主任、副主任が成長シートをもとに職員面談を行い、一人ひとりの職員と向き合うことでお互いの成長につなげ、実際の保育に活かしていく。

### あおぞら保育園

#### 🌸 “職員の責任”から考える 「クラスの方向性」

ひよこ	それぞれのチャレンジに向けて対話していこう (PDCA 形式)
りす	笑顔・元気 (健康)・感謝 みんなに向けて お互いがなんでも話せる関係
うさぎ	発信する 行動する (言語化) →安心感を深めるために
ぞう	溢れるありがとう 盛んな対話 ～心理的安全性の高い関係を作ります～
きりん	一丸 余裕 ほめあう (みんなで)
らいおん	失敗はない 発見なんだ 発見なんだよ慶太郎さん フィードバックを基にしたポジティブな精神づくり
ぱんだ (一時保育)	お互いに知る、知ってもらうから始めよう
支援者	気が付いたことを発信してみよう 対話 事務所に入りやすい雰囲気を作ろう
給食室	1年間行動指針について話し合おう!! ～対話と素敵なところ探し～

#### 🌸 乳児クラス

今年度は心理的安全性がベースにある職場の中で職員がイキイキ・ワクワクを感じて保育ができることを目標に進めていく。その中でクラス内でのコミュニケーション

はもちろん、クラス関係なくコミュニケーションを取りながら、様々なことを話し合える関係性を築いていくことも目指していく。そのような関係の下、理念を軸に保育を考え、子どもの為に何が必要かを考えて取り組み、評価し、それを踏まえてまた取り組むということを職員が意識できるように進めていきたい。

### 🌸 幼児クラス

昨年度は、新体制として3歳児と4歳児の年齢別のクラスとなり、今までとは異なる体制のため、3歳児クラスとして何ができるかなど、探りながらの保育であった。年齢別で保育をすることで、環境設定や役割、行事の練習等で効果を感じることができた。一方で、異年齢での関わりや年上の子をモデルとする回数が減ってしまう。

今年度は、「縦の関係」を意識し、異年齢での関わりを計画的に行えるようにしていきたい。その挑戦をするためにも、チャレンジしたことで良い結果にならなくても「失敗」と捉えず、「発見」とし、この場合はこうなる。次はどうすればいいかと前向きに考える姿勢を幼児全体で共有していく。

クラスの垣根を超えて、幼児一丸となり、積極的なコミュニケーションと良い関係性を築き、対話をしながら、理念を基に保育を考え行動していく。

「変わらない事は、変わり続ける事」として、今年度は新しい幼児クラス体制を作っていこうと思う。

## あおぞらぱれっと保育園

理念や保育の基本方針について職員同士が話し合う時間を大切にし、質問や疑問に対しリーダー・副主任・主任・園長と職員との間の壁を取り払い、伝えあったり、一緒に考えたりしながら、まずは実践して成功体験を感じられたり、上手くいかなかった時にも次はどうしたらいいかを考え理念への理解を職員みんなで深め合い、仕事を楽しいと思える職場づくりからスタートしたい。お互いを認め合い、不信感ややる気が失せないよう、まずは職員に信頼してもらえよう心して職員と向き合っていきたいと思う。言葉かけひとつで職員の仕事への思いが良い方向へ、そして仕事の喜びに繋がると信じて仕事をしていきたい。

## あおぞらルーム

少人数制を生かした丁寧な育児行為を徹底していく。

特に、あおぞらやパレットとの連携が重要なことから、日頃より両園との情報交換や人

材交流を積極的に行い、子ども、保護者たちが安心して移動できるようサポートしていきたい。

また、理念についても実践を通しながらパート職員とも理解を深め、一人一人の成長を後押ししていくことが目標である。

### 地域事業

地域事業では、今年度も一時・定期利用保育、地域向け講座を中心に行っていくが、その場限りの場当たりのものではなく、長いビジョンで保護者の育成をテーマにしたメニュー作りに取り組みたい

### 地域社会との連携

コロナウィルスの影響を鑑み、適時地域間計画書と連携を図りながら進めていく。

### 主な行事予定

- 4月 入園式、保護者懇談会
- 5月 遠足
- 6月 お泊まり保育
- 7月 プール開き
- 9月 保護者懇談会
- 10月 運動会、ハロウィン行事
- 11月 遠足
- 12月 年長バイキング、子ども会
- 2月 保護者懇談会、新入園説明会、年長お別れ遠足
- 3月 卒園式
- 月例行事 誕生会、

### エ 栄養管理

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成  
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成  
給食供給者としての諸管理

### オ 安全管理

交通安全教室（ 4月予定 ）  
非常災害時の避難訓練 毎月



引き渡し訓練の実施（ 9月 1日）

## （2）職員の処遇

### ア 職員構成

	園長	副園長	主任	副主任	保育士	看護師	栄養士	調理員	事務
こばと第一保育園	1名	1名	1名	4名		1名	1名	3名	1名
あおぞら保育園	1名		1名	1名	20名	1名	1名	4名	1名
あおぞらパレット保育園	1名		1名	2名	14名	1名	1名	4名	1名
あおぞらルーム	1名			1名	3名				

### イ 健康管理

健康診断 年 1回（ 4月）

細菌検査 年 2回

給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

保健健康委員の活動 毎月

保健師が中心となり、ストレスチェックなど職員の健康にかかわる取り組みを毎月行っていく

### ウ 職員会議

定例会 毎月 1回

行事前打合せ会（随時）

研修会議 毎月 1回

副主任会（随時）

クラスコーディネーター会（随時）

### エ 研修計画

○島田療育センター作業療法士による感覚統合研修（年6回）

○毎月園内研修会議を行う

外部研修での積み上げを職員中心にチームを組んで推し進めていきたい

○リーダー研修会議（可能性コンサルティング主催：法人研修）

### オ 退職・福利厚生

○福祉医療機構退職共済制度加入

○東京都社会福祉協議会従事者共済会加入

○健康検診受診

○インフルエンザ予防接種

## 2 施設管理

### (1) 事務関係

#### ア 会計事務、管理事務

会計管理は、社会福祉サービスセンターと業務提携を結び、毎月の事務管理を協力して行う。労務管理は、多摩労務事務所と業務提携を行う。

#### イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

保育システムを導入しており、出席管理など一元的に管理できるものは、省力化も含めパソコンを通してのデータ管理を行う。

保育については、ソフトを使った情報の収集を心がけ、事務の省力化と、仕事の可視化を目指していく。

### (2) 設備関係

#### ア 固定遊具の設備点検

毎月初日に安全点検を主任保育士、保健師立会いの下行う。（安全衛生委員会）

### (3) 備品関係

#### ア 備品購入予定

適宜そのときの状況を鑑み、購入を検討

#### イ 保育用品購入予定

乳児・幼児のおもちゃを発達ごとの課題をしっかりと押さえていけるように積極的に購入する。特に、紙製、木製のものでは、痛み・損傷の度合いによりきれいなもの、子どもが扱いたいと思う観点から購入を進めていく。

### (4) 災害対策

#### ア 避難訓練

毎月1回。必ず消火訓練(実地)を行う。

#### イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回） 富士消防設備に委託

#### ウ 非常食糧の備蓄

○（全児童数＋全職員数）×3食×（3日）分